

胃の健康度を血液でチェック 胃がんリスク層別化検査(ABC分類)

胃がんリスク層別化検査(ABC分類)とは…

胃粘膜萎縮マーカーのペプシノゲン検査と胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃がんの主な原因と考えられているヘリコバクター・ピロリ抗体検査を組み合わせて、胃の健康度をA、B、C、Dで分類するのが胃がんリスク層別化検査(ABC分類)です。胃の健康度に応じて内視鏡による精密検査を行うなど、効率的に検診を行う方法です。

ABC分類		ヘリコバクター・ピロリ抗体価	
		(-)	(+)
ペプシノゲン	(-)	A群	B群
	(+)	D群	C群

ペプシノゲン検査

「ペプシノゲン」という物質の血中濃度を測定することで胃粘膜の健康状態(萎縮)の状態を客観的に調べる検査です。

ヘリコバクター・ピロリ抗体価検査

胃がピロリ菌に感染していないかを調べる検査。ピロリ菌は胃酸の分泌や胃粘膜の免疫能の働きが不十分な幼少期(4~5歳)頃までに感染すると考えられています。子供のころに感染しなかった場合、大人になってから感染することは稀だと言われています。

胃の病気のかかりやすさ

A群 < B群 < C群 < D群

ABC分類判定対象外

E群(除菌群)

- ・ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群(除菌群)として**定期的**に内視鏡検査を受けましょう。
- ・E群では除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

下のいずれかに当てはまる方は正しい結果が得られない場合があります。

- 明らかな上部消化器症状のある方
- 上部消化器疾患治療中の方
- プロトンポンプ阻害剤(胃酸を抑える薬)服用中・服用終了後2ヶ月を経過していない方
- 胃切除後の方
- 腎不全の方
- ピロリ菌除菌治療を受けた方

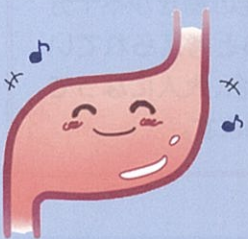

これらに該当する方は医療機関にご確認、ご相談下さい。

胃がんリスク層別化検査(ABC分類)報告書

実施医療機関	さらたにクリニック		担当医師	
氏名	様	カルテNo.	検査日	
性別	年齢	診療科	報告日	
備考		その他情報	受付No.	

検査項目	測定法	検査結果	陽性判定基準	判定	ABC分類
ヘリコバクター・ピロリ抗体	ELISA	3.0 > U/mL	3.0以上	(-)	A
ペプシノゲン	ペプシノゲン I	ラテックス凝集法	40.7 ng/mL	(-)	
	ペプシノゲン II	ラテックス凝集法	9.7 ng/mL		
	ペプシノゲン I/II比		4.2		
			ペプシノゲン I 70.0以下 かつ ペプシノゲン I/II比 3.0以下		

ABC分類判定結果

* A群	B群	C群	D群
			
<p>A群</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。 ・逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意しましょう。 ・未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ感染や感染の既往がある方が含まれます。 ・一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。 	<p>B群</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少し弱った胃粘膜です。 ・胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。 ・胃がんのリスクもあります。 ・内視鏡検査を受けましょう。 ・ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。 	<p>C群</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。 ・胃がんになりやすいタイプと考えられます。 ・定期的な内視鏡検査をお勧めします。 ・ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。 	<p>D群</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。 ・胃がんなどの病気になるリスクがあります。 ・ピロリ菌感染診断をお勧めします。 ・かならず専門医療機関で内視鏡などの診断を受けてご相談ください。